

ミャンマー情報

図書館

国立図書館 (<http://www.nlm-npt.gov.mm>)

ネビドーに移動、OPAC 導入進展中。京都大学が古文書のデジタル化支援。

国立公文書局 (ウェブサイトなし?)

ミャンマー大使館に事前に利用申請 (、所属機関の推薦書要)、現地で使用料要
局内のコンピューターでカタログへのアクセス可 (、資料タイトルの誤登録あり)

同局の文書整理番号は植民地行政の整理番号と別。

植民地期から現在までの行政文書あり。

一般公開は 1948 年の独立以前の文書。1963 年までの文書も一部公開。

大学中央図書館(Universities' Central Library) (<http://www.uclmyanmar.org>)

すべての大学の共同利用図書館。貝葉の貴重な仏典などもある。

オンライン検索可。誰でも利用可能、写真撮影可。英語ができるライブラリアンもいる。

植民地期の新聞などもあり、マイクロ化されている。

本屋

Myanmar Book Center (<http://www.myanmarbook.com>)

オンライン購入可能。

古本屋

かつては路上で販売されていたが、いまではオンライン情報に頼る人が増えて、古本屋は消滅気味?

出版の自由度

2012 年、出版の事前検閲制度の廃止に伴い、様々な出版物が出始めた。ジャーナリストがロヒンギャ問題などセンシティブな 이슈 を扱うと、出版後に逮捕される場合がある。ただし、一般の人はオンラインでの情報に頼る傾向が顕著であり、紙媒体への需要は減りつつある。

新聞

Seven Days Daily (<http://www.7daydaily.com>)(ビルマ語)

Myanmar Times (<https://www.mmtimes.com>) (英語) (かつて国営、今、民営)

有力なのは六紙ぐらい。ただし、メディア王のような存在はいない。

オンライン・メディア

DVB (<http://www.dvb.no>)

Democratic Voice of Burma。独立系ラジオ・テレビ局。

Mizzima (<http://www.mizzima.com>)

Myanmar Stories (<https://www.facebook.com/pg/myanstories/>)

映像・動画でミャンマーの政治経済的イシューの共有サイト

雑誌

Frontier Myanmar (<https://frontiermyanmar.net/en>)

総合誌として良い。オンライン・ニュースあり

Eleven (<http://news-eleven.com>)

スポーツ誌からはじまった総合誌。オンライン版日刊紙あり。

The Irrawaddy (<https://www.irrawaddy.com>)

調査ジャーナルとして一級

国家による検閲

インターネットの国家による監視は行われておらず、問題のあるオンライン情報には後で対処。そういう意味で、Post-Truth時代の最先端に行くかも。

インタビュー

昨今の自由化により、ツテがあればかなりいろいろな人と会える。